

北海道市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査研究

Public Seminars Focused on Paintings and Drawings Organized by Municipalities in Hokkaido Sub-prefecture

野 崎 嘉 男
Yoshio NOZAKI

I はじめに

平成8年に北海道は「道民の生涯学習に関する意識調査報告書」を発表した。それによると『生涯学習という言葉を知ったことがある』が83.3%、『今後、生涯学習をしてみたい』が77.1%であり、北海道民の生涯学習に対する意識の高さがうかがわれた。生涯学習の経験では『この1年間で経験した』が51.3%で、その内容は『趣味的なもの』と『健康スポーツ』とが半数以上を占めていた。また、今後学習してみたい生涯学習の内容は『健康スポーツ』が64.5%、『趣味的なもの』が60.8%と、この二つの分野が圧倒的に多い結果がでた。

生涯学習の目的については『趣味を豊かにする』が60.8%、『健康・体力づくり』が52.4%、『老後の人生を有意義に』が52.3%、『他の人との親睦を深める』が52.0%という順になっていた。

北海道はこれらの意識調査や生涯学習推進施策の状況をふまえ、同年に北海道生涯学習審議会を設置して、次のような北海道の生涯学習推進施策の方向性を打ちだした。

- (1) 道民の生涯学習の関心が着実に高まっていることから、人々の学習意欲を充足させることのできる、より幅広い学習の機会の提供が必要である。
- (2) 高等教育機関の社会人入学や公開講座の受講希望が多いことから、全道的な体制づくりが必要である。
- (3) 学習したくてもできない原因があることから、これらについての解決方策について検討する必要がある。
- (4) 生涯学習を通して身につけた知識や技能などを、社会的に活用する方策について検討する必要がある。

この中の、(1)についての部分『…人々の学習意欲を充足させることのできる、より幅広い学習の機会の提供が必要である』ところに焦点をあて、趣味を豊かにする領域の一つでもある文化活動としての「絵画関係講座」が、前述したような北海道の生涯学習の積極的な取り組みに呼応して、北海道内の各市町村教育委員会が心の豊かさを求める住民のニーズにどのように連動しているかの調査を実施して検証することにした。

本調査の目的は①北海道内14支庁管内の212全市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」の

開設状況を把握すること②道民のニーズに応えた受講者の各教育委員会対応状況を把握すること③担当指導者の対応状況を把握すること④平成10年度から同16年度まで7年間にわたって北海道内14支庁管内市町村教育委員会を対象にした調査が完了した。調査結果に年差があり、単純に比較検討することは難しいかもしれないが、北海道内14支庁管内市町村教育委員会の対応状況の共通性や違いなどを比較して、おおまかな概要を把握すること⑤私は油彩絵画を専門とする美術家（道展：北海道美術協会員）でもあるが、本学芸術メディア学科の学生に対し、生涯学習の観点から、今後の絵画指導上の知識理解の関連基礎的な資料を得ることにある。

Ⅱ 調査方法

調査対象は自治体の生涯学習の担当部署である北海道内14支庁管内212全市町村の教育委員会とした。

平成10年度の空知支庁管内27市町村教育委員会を対象にした調査（平成9年度の実態）を開始して以来、平成16年度の上川支庁管内24市町村の教育委員会と十勝支庁管内20市町村の教育委員会を対象とした調査（平成15年度の実態）まで、予定した全ての調査を完了するまでに7年間かかったが、貴重なデータを集約することができた。各支庁管内市町村教育委員会数と回答をいただいた教育委員会数、回収率を調査年度順に記す。

1. 空知支庁管内市町村教育委員会数	27	回答	27	回収率	100 %	調査年度	平成10年度
2. 留萌支庁管内市町村教育委員会数	9	回答	9	回収率	100 %	調査年度	平成11年度
3. 宗谷支庁管内市町村教育委員会数	10	回答	10	回収率	100 %	調査年度	平成11年度
4. 渡島支庁管内市町村教育委員会数	17	回答	17	回収率	100 %	調査年度	平成12年度
5. 桧山支庁管内市町村教育委員会数	10	回答	10	回収率	100 %	調査年度	平成12年度
6. 網走支庁管内市町村教育委員会数	26	回答	25	回収率	96.2%	調査年度	平成13年度
7. 釧路支庁管内市町村教育委員会数	10	回答	10	回収率	100 %	調査年度	平成13年度
8. 根室支庁管内市町村教育委員会数	5	回答	5	回収率	100 %	調査年度	平成13年度
9. 日高支庁管内市町村教育委員会数	9	回答	9	回収率	100 %	調査年度	平成14年度
10. 胆振支庁管内市町村教育委員会数	15	回答	13	回収率	86.7%	調査年度	平成14年度
11. 石狩支庁管内市町村教育委員会数	10	回答	10	回収率	100 %	調査年度	平成15年度
12. 後志支庁管内市町村教育委員会数	20	回答	20	回収率	100 %	調査年度	平成15年度
13. 上川支庁管内市町村教育委員会数	24	回答	23	回収率	95.8%	調査年度	平成16年度
14. 十勝支庁管内市町村教育委員会数	20	回答	18	回収率	90 %	調査年度	平成16年度
計	212		206		97.2%		

調査はアンケート式とした。回収率は97.2%であった。

Ⅲ 結果および考察

1. 「絵画関係講座」開設の有無

「絵画関係講座」開設の有無は、表1-1のように回答市町村206市町村中、開設した市町村が76で、開設しなかった市町村は130であった。全体の開設率は半数を大きく下回り36.9%にとどまった。14支庁管内で開設率が最も高かったのは石狩支庁管内が80.0%、次いで根室支庁管内が60.0%、十勝支庁管内の55.6%という順になっていた。管内市町村の50%以上を開設していたのは前述の3支庁管内のみであった。

また、地方圏別の開設状況は表1-2のように最も高かったのは札幌市を含む石狩圏が80.0%、次いで十勝圏が55.6%、釧路・根室圏の46.7%という順になっていた。札幌市を含む石狩圏が多いことは予想できたが、独特の文化圏を形成する十勝圏が予想外に活発に講座を展開していることが解った。

開設できなかった理由を回答してくれた97市町村からの主な理由は表2のようなものであった。『住民のニーズがないから』が最も多く46件、次に『地元絵画サークルがあり自主的に活動をしているから』が34件、『講師の確保困難』、『絵画以外の他の分野を開設しているから』がそれぞれ11件、『過去に開設したから』が7件という順になっていた。『その他』の理由が23件あったが『会場がない』、『専門性が高い』、『芸術鑑賞会をしている』、『他講座と日程が合わなかった』などが挙げられていた。ただ『特になし』、『必要性を感じなかった』などの理由も10件ほど挙がっていた。細かな中身までの分析はできなかったが、もしも教育委員会の消極的

表1-1 支庁管内の「絵画関係講座」開設の有無

支庁管内名	回答市町村数	開設した市町村数	%	開設しなかった市町村数	%	調査対象年度
空知支庁管内	27	12	44.4	15	55.6	平成9
留萌支庁管内	9	3	33.3	6	66.7	10
宗谷支庁管内	10	3	30.0	7	70.0	10
渡島支庁管内	17	8	47.1	9	52.9	11
松山支庁管内	10	3	30.0	7	70.0	11
網走支庁管内	25	6	24.0	19	76.0	12
釧路支庁管内	10	4	40.0	6	60.0	12
根室支庁管内	5	3	60.0	2	40.0	12
日高支庁管内	9	2	22.2	7	77.8	13
胆振支庁管内	13	4	30.8	9	69.2	13
石狩支庁管内	10	8	80.0	2	20.0	14
後志支庁管内	20	5	25.0	15	75.0	14
上川支庁管内	23	5	21.7	18	78.3	15
十勝支庁管内	18	10	55.6	8	44.4	15
計	206	76	36.9	130	63.1	

※①支庁管内名は調査年度順。②%は回答のあった市町村数を母数にしたもの。

表1-2 石狩圏、道央圏、道北圏、道南圏、十勝圏等地方圏の「絵画関係講座」開設状況

圏	支庁管内名	回答市町村数	開設した市町村数	%
石狩圏	石狩支庁管内	10	8	80.0
十勝圏	十勝支庁管内	18	10	55.6
釧路・根室圏	釧路支庁管内 根室支庁管内	15	7	46.7
道南圏	渡島支庁管内 松山支庁管内	27	11	40.7
道央圏	後志支庁管内 空知支庁管内 日高支庁管内 胆振支庁管内	69	23	33.3
道北圏	宗谷支庁管内 上川支庁管内 留萌支庁管内	42	11	26.2
オホーツク圏	網走支庁管内	25	6	24.0
	計	206	76	36.9

※%は回答のあった市町村数を母数にしたもの。

表2 開設できなかった主な理由

支庁管内名	開設講座数	ニーズがない	サークルあり 自主活動団体あり	講師確保困難	絵画以外の他分野開設	過去に開設した ことがあり	予算関係面で	将来または 次年度計画	その他	回答 市町村数
空知支庁管内	21	0	6	0	0	1	1	0	0	8市町
留萌支庁管内	6	3	0	1	0	0	1	1	1 特になし	5町村
宗谷支庁管内	3	1	3	1	0	0	0	0	1 特になし	5町村
渡島支庁管内	13	2	3	0	0	1	0	1	3 特になし	7町
松山支庁管内	5	1	1	1	1 陶芸、七宝焼	0	1	0	3 特になし	5町村
網走支庁管内	11	8	3	1	3 木工、草木染 陶芸、リース 絵手紙等	2	0	0	5 高齢者学習をしている。会場がない。地方祭で開催した。必要性を感じなかった。	14市町
釧路支庁管内	14	3	2	1	1 絵手紙	0	0	0	0	4町村
根室支庁管内	9	0	0	0	0	0	0	0	1 参加者主体で実施。	1町
日高支庁管内	3	2	3	1	3 陶芸、工芸系 指導者講座	1	0	0	0	6町
胆振支庁管内	7	4	3	0	0	0	0	0	2 財団で開催している。専門性が高い。	7市町村
石狩支庁管内	16	1	0	0	0	0	0	0	0	11町村
後志支庁管内	6	6	2	4	1 陶芸	0	1	0	3 当初から計画なし。近美で芸術鑑賞会をしている。他講座と日程が合わなかった。	1村
上川支庁管内	7	8	5	0	2 音楽、彫刻等	1	1	0	4 専門性が高い。美術鑑賞会を実施している。特になし。事業計画がない。	15市町村
十勝支庁管内	20	7	3	1	0	0	0	0	0	8町村
計	141	46	34	11	11	7	5	2	23	97市町村

※複数回答のため、計が回答市町村数と合致しないものがある。

な姿勢からきているものとしたならば残念なことである。

2. 講座の分野（領域）

開設した講座の分野（領域）は、表3のように純粋美術関係では『油彩画』が最も多く39講座、次いで『水彩画』が33講座、『版画』が8講座という順になっていた。また、近年盛んになってきた生活美術関係では『絵手紙』が最も多く22講座、次いで『トールペインティング』が13講座になっていた。全体では12の分野（領域）の講座が展開されていることが解った。幅広く多様性に富んだ講座の開設状況といえる。また、純粋美術関係の分野（領域）の講座がほぼ半数を占めているのが解った。まだまだ「絵画」関係講座のイメージの難さが定着している

傾向が見られた。『絵手紙』のように、日常生活に応用でき気軽に受講できる『和紙絵』、『押し絵』、『ステンドグラス絵』、『陶芸の絵つけ』などの生活美術関係講座が増えることを期待したい。

表3 開設した分野（領域）

支庁管内名	開設講座数	油彩画	水彩画	版画	デッサン	水墨画 墨絵	パステル画	植物画	ちぎり絵 和紙絵	押し絵	児童画 子供絵画	トール ペイント	絵手紙	その他(陶芸の絵付け、彫刻、 工芸、鑑賞会・鑑賞学習)
空知支庁管内	21	4	5	4	2	1	0	1	2	0	2	0	0	0
留萌支庁管内	6	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷支庁管内	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
渡島支庁管内	13	4	6	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
松山支庁管内	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0
網走支庁管内	11	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
釧路支庁管内	14	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	3	3
根室支庁管内	9	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
日高支庁管内	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振支庁管内	7	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0
石狩支庁管内	16	4	4	0	2	0	0	0	0	1	0	1	4	0
後志支庁管内	6	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
上川支庁管内	7	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0
十勝支庁管内	20	7	3	1	0	0	2	0	0	0	0	3	4	0
計	141	39	33	8	6	5	3	1	3	1	2	13	22	5

3. 開設講座の設定期間

開設した講座の期間については、表4のように1日間から38日間までとなっていた。10日間の講座が最も多く22講座であった。次いで1日間が18講座、3日間が15講座、2日間が14講座という順になっていた。20日間以上の講座が18講座あったが、全体の傾向としては短期間設定の講座が多いことが解った。平均講座設定期間は3.7日間であった。

表4 開設講座の設定期間

支庁管内名	開設講座数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
		空知支庁管内	21	2	1	4	0	2	0	0	2	0	5	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0
留萌支庁管内	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宗谷支庁管内	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡島支庁管内	13	1	1	1	1	0	1	0	0	0	3	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
松山支庁管内	5	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網走支庁管内	11	2	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
釧路支庁管内	14	3	2	2	0	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
根室支庁管内	9	1	0	1	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日高支庁管内	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
胆振支庁管内	7	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
石狩支庁管内	16	1	3	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0
後志支庁管内	6	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上川支庁管内	7	1	0	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝支庁管内	20	3	2	3	0	0	3	0	4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
計	141	18	14	15	4	7	8	0	13	1	22	1	5	2	3	5	2	0	2	1	11	0	3	0	1

支庁管内名	開設講座数	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	32日	33日	34日	35日	36日	37日	38日	39日	40日
空知支庁管内	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留萌支庁管内	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷支庁管内	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡島支庁管内	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桧山支庁管内	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網走支庁管内	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
釧路支庁管内	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
根室支庁管内	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日高支庁管内	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振支庁管内	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石狩支庁管内	16	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後志支庁管内	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
上川支庁管内	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝支庁管内	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	141	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

4. 開設講座の月

開設した月については、表5のように月単位で見ると15講座から68講座までとなっていた。7月が68講座で最も多く、4月が15講座で最も少なかった。やはり新年度早々の4月は少なく5月から講座が夏場に向けて活発化する傾向がみられた。7月の68講座を頂点として冬場に向けて段々と少なくなっている。月平均開設数は45.6講座であったが、5月から12月までの7か月間は平均講座数を上回っていた。行動しやすい北海道の季節、時期に関係していることがうかがわれた。

表5 開設講座の月

支庁管内名	開設講座数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
空知支庁管内	21	3	10	11	13	9	10	7	8	6	6	6	4
留萌支庁管内	6	1	1	3	3	4	3	2	3	3	3	3	1
宗谷支庁管内	3	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0
渡島支庁管内	13	0	4	7	7	5	6	5	5	4	3	5	3
桧山支庁管内	5	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
網走支庁管内	11	3	2	3	4	0	3	4	3	4	1	1	1
釧路支庁管内	14	0	1	5	7	7	3	2	4	7	1	1	0
根室支庁管内	9	0	2	3	4	5	3	3	3	3	0	3	1
日高支庁管内	3	0	3	3	3	2	3	3	3	2	2	2	0
胆振支庁管内	7	1	4	4	4	3	1	2	1	2	1	1	1
石狩支庁管内	16	4	9	10	9	9	9	10	10	9	11	11	3
後志支庁管内	6	1	1	2	3	3	1	3	2	2	2	3	2
上川支庁管内	7	0	0	2	3	1	2	3	0	0	1	1	0
十勝支庁管内	20	2	7	6	6	5	8	4	5	3	5	7	5
計	141	15	46	61	68	55	54	49	49	46	37	46	21

※1講座が数か月に跨るものがあるので、講座合計数と月別合計数とは合致しない。

5. 開設講座の時間

開設した講座の実時間については、表6のように1時間から7時間までとなっていた。2時間の講座が最も多く101講座であった。大きな差があったが次いで3時間が14講座、2時間30分が10講座という順になっていた。全講座の92.9%にあたる131講座が1時間30分から3時間の中に含まれていた。講座の設定時間はやはり2時間程度が適正時間といえそうだ。

表6 開設講座の設定時間

支庁管内名	開設講座数	1時間	1時間30分	2時間	2時間30分	3時間	3時間30分	4時間	4時間30分	5時間	5時間30分	6時間	6時間30分	7時間
空知支庁管内	21	0	1	15	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0
留萌支庁管内	6	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
宗谷支庁管内	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
渡島支庁管内	13	0	0	10	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
桧山支庁管内	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網走支庁管内	11	0	0	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
釧路支庁管内	14	0	3	6	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0
根室支庁管内	9	1	0	4	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0
日高支庁管内	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振支庁管内	7	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
石狩支庁管内	16	0	0	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後志支庁管内	6	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
上川支庁管内	7	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝支庁管内	20	0	0	14	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0
計	141	2	6	101	10	14	0	2	1	3	0	1	0	1

6. 開設講座の時間帯

開設した講座の時間帯については、表7のように午前中が52講座、正午から午後6時までが54講座、午後6時から午後9時までが48講座となっていた。正午から午後6時までの時間帯が

表7 開設講座の時間帯

支庁管内名	開設講座数	午前中	正午～午後6時	午後6時～午後9時	計
空知支庁管内	21	0	13	8	21
留萌支庁管内	6	4	3	2	9
宗谷支庁管内	3	0	2	2	4
渡島支庁管内	13	6	5	3	14
桧山支庁管内	5	3	0	2	5
網走支庁管内	11	6	1	5	12
釧路支庁管内	14	9	5	3	17
根室支庁管内	9	2	5	3	10
日高支庁管内	3	1	1	1	3
胆振支庁管内	7	1	4	2	7
石狩支庁管内	16	9	6	1	16
後志支庁管内	6	2	2	2	6
上川支庁管内	7	1	2	4	7
十勝支庁管内	20	8	5	10	23
計	141	52	54	48	※154

※1講座で2区分帯に跨がるものがあるので、計が開設講座数とは合致しない。

最も多かった。次いで午前中の時間帯が54講座、午後6時から午後9時までが48講座であった。この講座数をみるかぎり時間帯に大きな差がみられなかった。受講者の学習時間帯のニーズと主催者の企画意図のバランスがとれていることがうかがわれた。

7. 受講者数と男女の割合

受講者数と男女の割合については、表8のように受講者合計は2,376人で、内訳は男性が360人で15.2%、女性が2,016人で84.8%であった。圧倒的に女性が多かった。女性受講者が85%を超えた支庁管内は、松山支庁98.2%、上川支庁93.1%、釧路支庁92.4%、十勝支庁88.8%、日高支庁88.6%、根室支庁88.0%、後志支庁86.6%、石狩支庁85.6%という順になっていた。予想外に道央圏から離れている支庁管内に女性受講者が多い傾向がみられた。このデータだけで女性が男性よりも生涯学習に関する興味や関心が深いとの結論はだせないが、女性の方が幅広く学習する機会を上手に効用している実態がうかがわれた。

表8 受講者数と男女の割合

(上欄：人数，下欄：%)

支庁管内名	開設講座数	男性	女性	計	4歳～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	備考
空知支庁管内	21	53 19.0	226 81.0	279人 %	29	11	4	13	63	52	77	2	1	0	滝川市年代未回答。27人分
留萌支庁管内	6	48 27.0	130 73.0	178人 %	0	1	2	4	18	6	64	79	4	0	
宗谷支庁管内	3	14 26.4	39 73.6	53人 %	0	6	3	8	17	15	3	1	0	0	
渡島支庁管内	13	35 18.5	154 81.5	189人 %	27	9	3	13	44	51	24	7	0	0	八雲町年代未回答。11人分
松山支庁管内	5	2 1.8	107 98.2	109人 %	2	0	0	4	20	7	61	15	0	0	
網走支庁管内	11	40 27.4	106 72.6	146人 %	15	21	5	6	12	55	23	9	0	0	
釧路支庁管内	14	16 7.6	194 92.4	210人 %	0	2	6	37	32	41	51	37	4	0	
根室支庁管内	9	15 12.0	110 88.0	125人 %	10	12	1	3	19	28	6	0	0	0	中標津町年代未回答。46人分
日高支庁管内	3	4 11.4	31 88.6	35人 %	0	0	1	2	3	2	6	20	1	0	
胆振支庁管内	7	12 9.7	60 83.3	72人 %	2	6	3	7	2	11	19	5	1	0	厚真町年代未回答。16人分
石狩支庁管内	16	48 14.4	285 85.6	333人 %	0	0	7	20	24	94	79	56	3	0	江別市年代未回答。50人分
後志支庁管内	6	26 13.4	168 86.6	194人 %	0	43	0	3	18	39	36	28	6	0	岩内町年代未回答。21人分
上川支庁管内	7	6 6.9	81 93.1	87人 %	6	8	4	10	16	26	15	2	0	0	
十勝支庁管内	20	41 11.2	325 88.8	366人 %	0	8	14	68	53	89	83	38	13	0	
計	141	360 15.2	2016 84.8	2376	91 3.8	127 5.4	53 2.2	198 8.3	341 14.4	516 21.7	547 23.0	299 12.6	33 1.4	0	171 7.2

8. 受講者の年代

受講者2,376人の年代については、男女別の区分をしなかったが表8のように10歳以下（4歳から9歳）が、91人で3.8%、10代が127人で5.4%、20代が53人で2.2%、30代が198人8.3%、40代が341人で14.4%、50代が516人で21.7%、60代が547人で23.0%、70代が299人で12.6%、80代が33人で1.4%であった。60代が最も多く、50代、40代と続いていた。ただし、171人分、7.2%の一部未回答の市町村があったので完全なデータでないことを予めお断わりさせていただく。概ね各年代分布と同様と推察されるので、年代分布の全体傾向としては状況把握ができると判断した。50代から80代までの中高年齢層が1,395人で圧倒的に多く、全体の58.7%を占めた。

北海道新聞社が平成13年6月に実施した中高年を対象にした『これから学びたい、試したいこと』のアンケートのデータでも、〈絵画・書道〉が50代で24.9%、60代で27.8%とい結果がでていたが、学習したい分野のニーズと実態との共通性をみることができた。高齢化社会の生涯学習の好ましい動向といえる。

9. 講座担当の指導者

講座担当の指導者については、表9のように主催教育委員会職員が10人、地元専門家が83人、他市町村専門家が38人、その他が10人であった。地元専門家が最も多く58.9%、次いで他市町村専門家が26.9%で、やはり関係講座に関わる専門家が圧倒的に多かった。講座の開設時に関係講師の確保に苦慮している支庁管内が少ない中、80%以上地元の専門家を確保して開設している支庁管内は釧路支庁管内(85.7%)、留萌支庁管内(83.3%)、後志支庁管内(83.3%)、石狩支庁管内(81.3%)の4支庁管内だけであった(講座開設数と講師数の割合)。今回の調査で解ったことであるが、専門関係講師の確保が困難な場合に、専門家以外の美術専門学校学生、絵画サークル会員(アマチュア)、愛好家、現職・退職教員などの協力を得て講座を開設している事例が10件あった。創意工夫、知恵を出しあって講師を確保しての講座の積極的な取り組みは高く評価したい。

表9 講座担当の指導者

支庁管内名	開設講座数	主催教育委員会職員	地元専門家	他市町村専門家	その他(内訳)
空知支庁管内	21	3	12	5	1 地元愛好家
留萌支庁管内	6	1	5	0	0
宗谷支庁管内	3	0	1	2	0 教育委員会職員と日本版画協会会員と共に指導する形
渡島支庁管内	13	1	8	3	1 地元現職中学校教員
松山支庁管内	5	1	0	1	3 退職教員2人、高校現職教員1人
網走支庁管内	11	2	7	2	0
釧路支庁管内	14	0	12	2	0
根室支庁管内	9	0	2	5	2 サークル代表者1人、美術専門学校学生1人
日高支庁管内	3	0	2	1	0
胆振支庁管内	7	0	5	2	0
石狩支庁管内	16	0	13	2	1 絵画サークル会員
後志支庁管内	6	0	5	1	0
上川支庁管内	7	1	3	2	1 地元愛好家(長年、水彩画を描いている人)
十勝支庁管内	20	1	8	10	1 他町の愛好家
計	141	10人	83人	38人	10人

10. 1 講座あたりの受講者負担平均金額と主催教育委員会支出平均金額

1 講座あたりの受講者負担平均金額については、表10のように宗谷支庁管内の7,333円が最も多く、日高支庁管内が333円と最も少なかった。講座の日数や内容、講師料など、さまざまな要因があるので単純に比較はできないが、数字上では大きな開きがあることが解った。14支庁管内の平均金額は1,938円であり、これを下回っていたのは宗谷支庁、石狩支庁、十勝支庁を除く11支庁管内であった。やはり平均金額の2,000円程度が受講者負担金額としては妥当な

ところだと判断できた。調査した141講座で受講者の負担が無料というのが29講座あったが、講座への責任ある取り組みや意欲、また最後まで事を成し遂げる心がまえなどを考え合わせると少額でも受益者負担はあってもよいと思う。

1講座あたりの主催教育委員会の支出平均金額については、同表のように日高支庁管内の111,933円が最も多く、上川支庁管内が19,900円と最も少なかった。14支庁管内の平均金額は60,134円であり、これを下回っていたのは留萌支庁、網走支庁、根室支庁、日高支庁、石狩支庁管内を除く9支庁管内であった。これも講座の日数や内容、講師料など、さまざまな要因や対応があるので、これが妥当・適正だとの金額提示の断定はなかなか難しい。もちろん教育委員会からの支出金額は多いに超したことはない。受講者の負担金額をできるだけ軽減して、主催教育委員会が応分の支援をしているのだという体制が地域住民に見えることが、生涯学習啓蒙の観点からも望ましいのではないか。

表10 1講座あたりの受講者負担平均金額と主催教育委員会支出平均金額

単位：円

支庁管内名	開設講座数	受講者負担平均金額	教育委員会支出平均金額
空知支庁管内	21	1,807	46,245
留萌支庁管内	6	1,267	94,342
宗谷支庁管内	3	7,333	60,000
渡島支庁管内	13	1,745	49,690
桧山支庁管内	5	900	40,000
網走支庁管内	11	409	69,091
釧路支庁管内	14	1,744	33,387
根室支庁管内	9	1,522	85,051
日高支庁管内	3	333	111,933
胆振支庁管内	7	1,894	54,286
石狩支庁管内	16	3,225	83,750
後志支庁管内	6	917	50,833
上川支庁管内	7	1,114	19,900
十勝支庁管内	20	2,915	43,371
計	141	27,125	841,879
1講座あたりの平均金額		1,938	60,134

11. 講座終了後の発表会開催の有無

講座終了後の作品発表会開催の有無については、表11のように全講座数の半数以上の53.2%にあたる75講座が何らかの形で発表会を開催していたことが解った。使用会場はほとんど自治体の公共施設になっていることも解った。最も多いのが公民館・コミュニティセンターで30会場、次いで市民会館・文化センターが15会場、農村環境改善センターが7会場、図書館、美術館・博物館が3会場、市役所が2会場などとなっていた。その他、プラザギャラリー、百年記念ホール、福祉センター、自治センターなどと幅広く公共施設に会場を設定していることが解った。民間施設としては渡島支庁管内でデパートの使用が1会場あったが、集客力のあるこ

表11 講座終了後の発表会の有無と会場

支庁管内名	開設講座数	有	無	使 用 会 場
空知支庁管内	21	13	8	公民館 8, 農村環境改善センター 2, 体育館 2, 図書館ギャラリー 1
留萌支庁管内	6	1	5	公民館 1
宗谷支庁管内	3	1	2	図書館 1
渡島支庁管内	13	10	3	文化センター 3, 市役所市民ホール 2, 博物館 2, 福祉センター 1, 公民館 1, デパート 1
桧山支庁管内	5	3	2	文化会館 3
網走支庁管内	11	7	4	市民会館 5, 美術館 1, 図書館 1
釧路支庁管内	14	4	10	改善センター 3, 公民館 1
根室支庁管内	9	3	6	公民館 2, 文化会館 1
日高支庁管内	3	3	0	公民館 3
胆振支庁管内	7	0	7	
石狩支庁管内	16	14	2	公民館 6, ホームページ 4, 市民会館 2, コミュニティセンター 1, 自治センター 1
後志支庁管内	6	2	4	文化センター 1, 公民館 1
上川支庁管内	7	2	5	公民館 1, 体育館 1
十勝支庁管内	20	12	8	公民館 5, プラザギャラリー 3, 農村環境改善センター 2, 百年記念ホール 2
計	141	75	66	
		53.2%	46.8%	

の種の民間施設を活用・効用することも、施設側の理解が得られれば今後もっと推進してもよいのではないかと思う。また、石狩支庁管内でのホームページによる公開発表も、IT時代にふさわしい発表形態として注目した。今後拡大する可能性に期待したい。

12. 教育委員会が講座を企画する時の課題

「絵画関係」の講座を企画・開設する時に一番苦慮することはとの質問に対して、表12のように69市町村からさまざまな課題が寄せられた。最も多かった課題は『受講者の確保』で26市町村、次いで『指導者の確保』で18市町村、『会場・備品等の用意』9市町村、『日程・時間の調整』が8市町村という順になっていた。昨年までの各支庁管内の調査でもやはり住民のニーズの把握も含めて受講者の確保が課題になっていたが、北海道全体としても大きな課題になっていることがあらためて解った。支庁管内によっても異なるが、さまざまな要因があるように思う。速効的な策は見当たらないが、教育委員会が地域の芸術文化行政施策の一環として、美術関係の振興普及活動として住民への意識の啓蒙や動機づけ、各種情報の提供など、息の長い取り組みが必要と考える。体育関係の活動と比べると、文化芸術活動は成果や結果が記録にすぐに現われない難しさがあるが、地道な努力を続けてほしい。課題で気になるものがあった。

『講座開設の経験不足』と『職員のアートマネジメント不足』などである。これは教育委員会側の問題としてとらえたい。経験不足の課題は場数を踏んで解決するしかないし、職員のマネジメント不足の課題は職員の研鑽を積んで解決するしかないと思う。積極的な取り組みを期待したい。その他の課題で『講師の人間関係』、『講師の資質』、『人数の調整』などが挙がってき

だが、予想しない課題であった。住民に期待される充実した講座を展開するほどでてくる課題だと思ふ。いろいろと対応に苦慮しながら熱心に講座に取り組んでいる教育委員会があることが解った。

表12 教育委員会が講座を企画する時の課題

支庁管内名	回答市町村	受講者の確保	指導者の確保	会場・備品等の用意	日程・時間の調整	対象者の範囲決定等	講座レベルの設定	住民のニーズ不明	予算関係	指導者の選定	サークルとの関連	講座開設経験不足	受講料の見返り配慮	職員のアートマネジメント不足	受講料の設定	その他
空知支庁管内	9市町	2	1	0	3	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
留萌支庁管内	4市町村	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
宗谷支庁管内	2町	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
渡島支庁管内	4町村	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
松山支庁管内	5町	0	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
網走支庁管内	12市町村	6	2	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	
釧路支庁管内	3市町	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	講師の人間関係等
根室支庁管内	2町	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日高支庁管内	3町	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	道具の経費が高い
胆振支庁管内	4市町	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	講師の資質
石狩支庁管内	3市村	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
後志支庁管内	5町村	0	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
上川支庁管内	6市町	3	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
十勝支庁管内	7市町	5	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人数調整に苦慮
計	69市町村	26	18	9	8	5	3	3	3	2	1	1	1	1	1	4

※複数回答のため、計が回答市町村数と合致しないものがある。

IV ま と め

以上、北海道内14支庁管内212全市町村の「絵画関係講座」開設状況についての調査結果を報告し若干の考察を試みてきたが、調査結果から概ね次のことがいえそうだ。

- (1) 北海道内14支庁管内212全市町村の全調査完了までに7年間かかったが、各支庁市町村教育委員会の理解と協力をいただき調査アンケートの回収率は97.2%（202市町村中206市町村から回答）の高率であった。ご承知のように既に始まった「平成の市町村大合併」で平成18年3月には、北海道に212あった市町村が180に減少することになった。その意味では212市町村の状況を調査することができたことは幸いであった。市町村数が減少しても旧自治体は新自治体に含まれることになるので、住民の生活やさまざまな活動の場が失われることにはならないだろうし、大きな変化はないものと思われる。今回、調査をした「絵画関係講座」開設については、生涯学習社会構築の進展充実路線を敷く北海道の生涯学習施策を実現させるために、今後も一層活発化する方向へ動くものと推測する。当該市町村においては今後の新自治体の中で、特に教育委員会は従前以上の住民との緊密な関係を維持し、さまざまな講座開設に関わる課題に取り組むことを期待したい。
- (2) 北海道の地方圏別にみると、予想どおり札幌市を含む石狩圏が80.0%という高率で講座を開設している状況が解った。次いで十勝支庁管内市町村の十勝圏が55.6%、釧路・根室

圏の46.7%の開設と続いていた。開設率50%を超えたのは石狩圏と十勝圏にとどまった。予想外であったのが十勝圏であったが、歴史的にも札幌の文化圏とは異なる独特の芸術文化風土を持ち続け、独自の文化圏を構築していることがうかがわれた。釧路・根室圏は46.7%と石狩圏から遠隔地域にあって50%に近い開設率であったが、いろいろな課題を抱えながら講座開設に積極的に取り組んでいることが解った。石狩圏を除いた道央圏の開設率が33.3%と意外と低い開設率であることが解った。講座を開設した市町村数は23と他圏に比較すると数量的には多いが4支庁管内全体の市町村数が69と多いことが微妙に影響しているように思われた。

北海道全体をみると札幌市を中心とした石狩圏が絵画関係講座への取り組みが最も活発に展開していることが証明された。

- (3) 講座を開設できなかった理由として最も多く挙げられたものは①住民からのニーズがない(46件)。次いで地元で絵画関係の自主サークルなどがあり活動している(34件)。②講師の確保が困難である(11件)。③絵画以外の他分野の講座を開設している(11件)などであった。これらの課題はこれまでの各支庁管内の調査でもほぼ共通していたことだが、北海道全体をみても同様な結果であることがあらためて解った。①については主催教育委員会の美術文化分野の住民への興味や関心を持つような動機づけ(美術展の誘致開催、美術館での鑑賞会、美術家を招聘しての講演会など)や情報提供と啓蒙運動(自治体制作のホームページの活用など)など継続的な努力を期待したい。②については専門分野の講師にばかりこだわらず、美術系大学・美術専門学校の学生や現職・退職美術科教員、愛好家なども視野に入れて幅広く選考することも考えてよいのではないか。また支庁管内単位で講師登録制度などのネットワーク体制をつくり、広域的に対応できるようなシステムの構築なども考えてよいのではないか。
- (4) 北海道全体での受講者数は2,376人であった。年代層では60代が最も多く、次いで50代、40代という順になっていた。60代から80代までの受講者は879人で全体の37.0%と40代から50代までの受講者857人、36.1%を上回り、高齢者層の受講が多いことがあらためて確認できた。平成17年度住民基本台帳人口要覧によると北海道の40代から50代までの人口は1,616,973人であるので、この世代は1886.8人に1人が受講していることになる。また60代から80代以上の人口は1,531,582人であるので、この世代は1,742人に1人が受講していることになる。この数値が人口割りにして多いのか少ないのか比較するデータがないので解らない。5年後あたりを目処として再度調査してみたいものだと考えている。男女の割合では女性が圧倒的に多く2,016人で84.8%を占めた。これまでの調査でも解っていたことであったが、女性のための講座といっても過言でない実態にあることも確認できた。高齢化社会としては、好ましい傾向といえるかもしれないが、今後、各年齢層、特に若年層の男性を如何にして講座への参加体制を整えるか、生涯学習社会の良好な環境作りとあわせて大きな課題となりそうだ。教育委員会のリーダーシップを強く期待したい。

- (5) いずれにしても本調査で大変貴重な結果を得ることができた。「平成の市町村大合併」後の分析の基礎資料にさせていただきたい。終わりに本務多忙な折り、快くアンケート調査にご協力いただいた北海道212全市町村の教育委員会生涯学習担当部署に深甚なる感謝とお礼を申しあげる次第である。〈2005年12月記〉

文 献

- 1) 野崎嘉男・藤原等：北海道における生涯学習の取り組み(1)，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第34号，137～138，1998，
- 2) 藤原等・野崎嘉男：北海道における生涯学習の取り組み(2)，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第34号，149～162，1998，
- 3) 北海道教育委員会：生涯学習意識調査結果(抜粋)
- 4) 野崎嘉男：平成9年度の空知支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第36号，73～86，1999，
- 5) 野崎嘉男：平成10年度の留萌支庁管内・宗谷支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第38号，67～80，2000，
- 6) 野崎嘉男：平成11年度の渡島支庁管内・桧山支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要，第1号，109～126，2001，
- 7) 北海道新聞，平成13年9月6日，「シニアの意識様変わり：道内中高年アンケート」
- 8) 野崎嘉男：平成12年度の網走・釧路・根室支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要，第2号，133～150，2002，
- 9) 野崎嘉男：平成13年度の日高・胆振支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要，第3号，57～70，2003，
- 10) 野崎嘉男：平成14年度の石狩・後志支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要，第4号，69～86，2004，
- 11) 野崎嘉男：平成15年度の上川・十勝支庁管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」に関する調査，北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要，第5号，43～59，2005，
- 12) 財団法人国土地理協会，平成17年度住民基本台帳人口要覧，2005，8，